

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 豊中市立千成小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 561-0829  
大阪府豊中市千成町 2-2-65

E-mail t\_sennarisho@tss.toyonaka-osa.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 148 名 女子 167 名 合計 315 名  
幼児・児童・生徒の年齢 7 歳 ~ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は「未来をつくる子どもたちとともに歩む ~ 子どもたちを仲間・学び・社会とつなぐ教育の創造 ~」を教育目標として掲げ、ESD をこれからの国際社会を担う子どもたちの育成にかかわる大きな教育実践の核として位置付けている。

今年度の実践として、具体的には、①人権教育の諸テーマである平和教育や多文化共生教育、多様性教育の実践、②様々な持ち味を持った子どもたちがともに対話し、協力する集団づくりや自治活動、行事の実施、③国語の授業を中心に論理的な思考力や対話的な活動を大切にした授業づくり、④理科や生活科、総合的な学習をとおした環境教育、⑤地域の自主防災会と連携した防災教育などの精力的に取り組んできた。

### ① 人権教育

社会には人権課題が多々存在するが、本校では 6 年間教育活動を見通して、各学年で子どもの実態や教育課程に基づいて、人権教育研究テーマ (平和教育やインクルーシブ教育、多文化共生教育、多様性教育など) を設定して実践を積み重ねている。

## ② 集団づくり・自治活動・行事づくり

すべての子どもたちが安心して過ごせる学級集団づくりを進めるために低学年から各学期にクラス遊びウィークを設定し、集団遊びを通して人間関係を整えるとともに、トラブルを自分たちで解決する機会として活用している。日々の学級活動を通して子どもたちに自治意識を育むとともに、児童会活動やひいては社会参画の意欲を育みたいと考えている。

## ③ 論理的思考力と対話的言語活動を大切にした授業づくり

6年前から国語科の説明文を授業研究の要として位置付け、子どもたちに論理的な読解力や自分の意見に理由や根拠を挙げて主張する話す力や書く力の育成を進めている。その成果もあって、子どもたちはペアや班で話し合い、課題をより良い解決方法を考える習慣が身につき始めている。

## ④ 環境教育・エネルギー教育

持続可能な地球環境について学ぶため、低学年生活科での植物栽培や飼育、中高学年の理科・社会・総合的な学習の時間での「くらしと水」「ごみとリサイクル」「昔のくらし」「地域の歴史文化と祭り体験」「エネルギー」「地球環境」などを学んでいる。いずれのテーマも図書館やインターネットを駆使した調べ学習と自分たちの考えたことをプレゼンテーションする授業を大切にしている。

## ⑤ 防災教育・命の学習など

防災については、全学年で毎年、阪神淡路震災をテーマに当時の苦労について聞き取り学習をしたり、地域の自主防災会の主催する防災訓練にも説教的に参加し、防災意識を高めている。また、低学年では、命をテーマに、生き立ちについて保護者から聞き取りし、命の大切さと家族の役割について学ぶ機会をもうけ、子どもたちの自尊感情の向上に努めた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の研究部（人権教育推進委員会と教科教育推進委員会で構成）に ESD 教育を位置づけ、6 年間の系統性のある教育課程の研究・充実を全教職員で進めている。

人権教育研究については各学年の研究テーマを設定し、人権課題や集団づくりの実践をすすめており、年間を通じた人権教育プログラムづくりの中で ESD の視点（特に多様性教育）を盛り込んでいる。

教科教育研究においては、国語科の言語活動を核とした授業づくりの視点を全教科に広げ、様々な課題を協働して解決する学習活動を大切にしている。

いずれの推進委員会も全学年で研究授業、事後検討会、学識経験者等の指導助言をもらいながら、成果と課題を整理しながら研究している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

前項に述べたように、校内組織として研究部の人権教育研究と教科教育研究の推進担当者を校務分掌に位置づけている。

特に人権教育研究の委員長を ESD 担当者として位置づけ、学校としての取り組みを積極的に発信するよう努めている。

それぞれの研究については、年間 6 本の研究授業とプログラムについての検討会を年間にわたって行い、研究授業当日には指導助言者を招いて、その成果、課題、改善点について全教職員で検討している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、学校評価のためのアンケートを児童、保護者に対して行っているが、ESD 教育について特化した項目を記載していないため、具体的な数値として効果測定できていないことが今後の課題であると認識している。

わずかではあるが、「人権教育や命の大切さ」「友だちと相談をしながら課題を設定したり、その解決を図ること」「地域社会の行事への参加」「社会に役に立つ人になりたい」といった項目については、少しずつではあるが向上の傾向が見られる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

豊中市の人権教育や国語教育、ユネスコスクールの実践交流会や研修会に参加することで、本校のささやかな実践についても報告や交流を進めている。他校の実践の内容や工夫に学ぶことも多く、今後のとりくみの参考として生かしていきたいと考えている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特にできていない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

全国のユネスコスクールの実践については、ホームページを中心に、各校の実践内容を検討したり、書籍を参考にして、本校の取り組みに生かしたいと考えている。

現時点では、国内外のユネスコスクールと連携した教育実践を実施できていないので、交流や連携といったネットワークづくりが課題であると認識している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ESD 教育の趣旨と本校で積み上げてきた人権教育や教科教育の実践の柱に重なるものが大きい。持続可能な世界を支えるおとな（社会人）としての知識だけでなく、様々な課題を協働して解決する力を育むこととその土台となる個々の子どもたちの学力（考える力）と自尊感情の向上に努めてきた。本校の子どもたちの生活背景そのものが、貧困を中心として現代社会の歪みに少なからぬ影響を受けているため、保護者や子どもたちとともに ESD 教育の視点を大切にしたい学校づくりが必要であると考えている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

次年度も大枠としてはこれまでの実践についての成果と課題を整理しながら研究を進めていきたいと考えている。

その中でも、特に次年度以降は、ESD 教育の理念をさらに学校運営のテーマとして大きく位置付けることで、これまでの人権教育と教科教育の研究の重なりと相互の補完的な領域を明確に意識することで、研究の一層の深化・充実を図りたい。

具体的には、次年度も以下の研究と実践を進めていく。

- ① 人権教育：平和学習、インクルーシブ教育（障害者理解教育）、多文化共生教育（国際理解教育）、多様性教育など
- ② 教科教育：言語活動の充実、課題解決学習、論理的思考力の可視化
- ③ 地域交流・異学年交流：地域の良さと歴史を学び、地域社会への貢献や参画する学習、中学校や幼稚園、子ども園との交流を通じた自己有用感の向上
- ④ 環境教育・防災教育・エネルギー問題に関わる学習などの充実